



季刊 まっり チャランケ祭

2017 夏号

(vol.2/2017.7.30発行 ver.2)

FREE PAPER

発行：実行委員会事務局

編集：事務局広報班

東京・中野で1994年から続いている、アイヌと沖縄人の出会いから始まった祭り——チャランケ祭の季刊紙です。

[事務局] 〒164-0001中野区中野5-47-5 (南国居酒屋 aman内)

TEL : 080-5414-2564 (実行委員長 上里堯) メール : charankematsuri@yahoo.co.jp

WEBサイト : <http://charanke.jimdo.com> facebookページ : <https://www.facebook.com/Charankematsuri/>



こんにちは！チャーちゃんだよ～
今年も秋の開催に向けて準備しています！



祭りは天と地を継ぐ、踊りは人と宇宙を継ぐ

第24回 **チャランケ祭** 2017

ウチナンチュ

チャランケ祭は、アイヌと沖縄人の東京での出会いがきっかけとなり、中野北口広場で1994年から始まった祭りです。アイヌの儀式「カムイノミ」沖縄の儀式「旗あげ」「シタク」が行われ、古来からの幸せを祈るための祭の形式を大切にしながら、様々な民俗の歌と踊りが披露されます。アイヌと沖縄をはじめとする民俗料理をたのしみながら、伝統儀式や民俗舞踊のなかにある言葉や生活様式に触れることで、歴史や文化を体験し、祭りを通じてそれらへの理解を深め、人と人のつながりがひろがっていくことを願っています。

予定日：2017年11月4日(土)・5日(日)

会 場：中野区内某所 *申請手続き中です。

主 催：チャランケ祭実行委員会

入場無料/雨天決行

■儀式… アイヌの儀式 (カムイノミ) 沖縄の儀式 (旗あげ～シタク)

■文化交流… アイヌブース 沖縄ブース

<参加予定団体>

- 出演 … いなほ保育園 上石神井琉球エイサー会 具志川倶楽部 ケグリシーサーズ 東京沖縄県人会青年部エイサー隊 中野新道エイサー 中野区上鷲宮エイサーかみさぎ舞鼓打人 中野七頭舞チャランケ祭有志ペウレウタリの会 ぶりむん 森の踊り衆 ヤイレンカ 和光小学校 和光鶴川小学校 和光青年会 など

- 飲食 … チャランケ屋(本部売店) ハルコロ カムイミンタラ 抱瓶 山横沢 鉄板遊 など *50音順 *参加団体は変更になる場合がございます。



スタッフ参加者募集！

この祭りをいっしょに育ててくれる仲間を募集しています！
お気軽に事務局までご連絡下さい。

春から始まったこの祭報。今回はこの祭りの会長、金城吉春さんのインタビューをお届けします。24年前の立ち上げの時からずっと、心と体を動かし、祭りをリードして来た吉春さんに、チャランケ祭の出発点について、お話しを伺いました。

まったりほう

祭報インタビュー 金城吉春 「祭りは、伝えるもの」

場所：中野沖縄料理あしびなー 聞き手：事務局広報班



金城吉春（きんじょう・よしはる）●プロフィール
1954年生まれ。沖縄県南風原町出身。チャランケ祭実行委員会会長。中野新道エイサー地方。中野沖縄料理あしびなー店主。1980年に上京し塗装工として働きながら故郷を思い出し三線を弾くようになる。沖縄出身者の「ゆうなの会」をきっかけにエイサーに取り組み、その後、東京・中野を拠点に活躍。踊り、歌、祭り、沖縄料理——それらを通して様々な人々の間に多くの縁を生み続けている。

●吉春さんのアイヌとの出会い

—— この祭りの始まりは、アイヌの広尾正さんと吉春さんが出会ったことからとされていますが、その時のことを教えてください。

吉春 民舞研（東京民族舞踊教育研究会）に呼ばれて、俺が和光小学校にエイサーを教えに行ったの。そしたらその日、広尾さんもアイヌの踊りを教えに来ていて。終わったあと焼肉屋で会ったの。

—— だからチャランケ祭には、和光小が毎年参加しているんですね。当時の民舞研と吉春さんは、どのようなつながりだったんですか？

吉春 （民舞研の会員であり和光小の教員だった）園田洋一さんが、俺たちの練習場所の（中野北口）広場にエイサーを教わりに来てたの。それで小学校にも教えに来てくれて。

—— 当時、吉春さんたちは毎晩のように広場で練習していたんですね。

吉春 うん。

—— 広場で練習していると、いろんな人が参加して来ましたか？

吉春 うん。

—— 沖縄出身ではない人がエイサーを踊ることに違和感はありませんでしたか？

吉春 ないよ、かえって嬉しいよ。

—— エイサーを教えに、学校に呼ばれるってどんな気持ちでしたか？

吉春 （しみじみと）不思議だなあって。聞いたら、教育の一環になるからって。素晴らしいなって思った。エイサーを教育の一環に取り入れるって、素晴らしいと思ったよ。俺が子どもの時はウチナーグチ（沖縄の言葉）をしゃべると「金城くん、廊下に立ってなさい」って先生に怒られた。先生も訛ってるんだけどね。

—— アイヌの広尾さんとはその後、どのようにつながるんですか？

吉春 広尾さんが俺たちのエイサーの練習を見に広場にきたの。それで練習終わって呑みに行って。そしたらこの広場で自分も踊りたいって。当時、灯りもなく暗くて何もなかったのに。それで俺たちのエイサーも（東京沖縄県人会）青年部を離れて、東京エイサーシンカになった頃で、自分たちでやらなければならない祭りがあると思っていて。それがアイヌの広尾さんが広場にきたことをきっかけに、チャランケ祭につながった。

—— 沖縄出身の吉春さんがアイヌと出会ったのは、広尾さんが初めてですか？

吉春 青年部のアシバ祭で、アイヌの団体が出てたから。その頃から（現在もチャランケ祭と一緒にやっている）ユキノブ（宇佐幸将）やテルちゃん（宇佐照代）を知ってる。二人ともまだ子どもだったけど。

—— そうだったんですね！その頃からのつながりなんですね。

吉春 当時の仲間がアイヌの団体とも繋がっていて、アシバ祭に呼んでたの。それとね、俺、うるま祭り（*注）に行ったから。そこでアイヌと出会う。金環日食の年（1987年）に喜納昌吉が北海道からアイヌを呼んで、久高島が見える知念村の海辺の丘でやった祭り。

—— カムイノミ（アイヌ民族の伝統儀式）もそこで初めて体験したんですか？

吉春 カムイノミはね、（恩納村の）万座毛でやったの。そこが金環日食が一番よく見えるってということで。そしたら晴れてね。俺もそこにいたよ。

—— カムイノミを体験した時、どう思われましたか？



（上）園田洋一さんと中野北口広場で
（下）和光小で子どもたちに教えている様子
写真提供：園田洋一さん

*うるま祭り…喜納昌吉氏が1980年から7年ごとに開催してきた沖縄の文化と精神を伝える祭りとムーブメント。沖縄が昔、国境がなく平和に自然とともに暮らしていた時代の古称「うるま」という。吉春さんが参加したのは1987年の第2回で、9日間に渡って開催され、最終日に万座毛でアイヌ民族と宮古島のカミンチュ（神人）の儀式による文化交流が行われた。

吉春 びっくりしたよ。ちゃんとオガミ（祈願）が残っている。自然の恩を受けて飾りが無い。イナウ（木をリボン状に削った祭具）見ても、神社の祭壇（の原型）を感じるでしょ。

●チャランケ祭の始まり

———祭りをやろうと決めてからは、どんな動きがまずはあったんでしょうか？

吉春 祭りをやろうと広尾さんに伝えて。それから、当時のアシバ祭の仲間の上里忠之、當眞嗣光、金城孝栄に相談して。民舞研にもいろいろ教えてもらって。民舞研には相当協力してもらったよ。（資金を集めるための）賛同券もつくったりして。

———当時の会議は、どこでやっていたんですか？

吉春 和光小だったと思う。

———最初に祭りを起こすことって大変なことじゃないですか。そこには民舞研と和光小の存在があったんですね。

吉春 うん。それと本部売店の売り上げ。それと（東京エイサー）シンカが（アートキャンプ）白州に出してもらった金も残っていたから。それを祭りの立ち上げ資金にした。

———1回目からカムイノミを行ったんですよね？

吉春 もちろん。最初からそのイメージがあったから。東京の真中でカムイノミをやることに意味があると思って。オガミ（祈願）から始まってチャランケがある。

———第1回目は、北海道の帯広からアイヌの団体を呼んだんですよね？どうして帯広の団体だったんですか？

吉春 広尾さんが帯広の人だから。それで俺たちも交流に行ったりしてたから。

———資金など大変なことがあっても、北海道からアイヌを呼びたいと思ったきっかけは？

吉春 最初にアイヌのおばあを呼びたい気持ちがあったの。広尾さんからね「アイヌのおばあは、道を渡るのもハジチ（民族の伝統習慣の刺青）を隠して暮らしてる」って。わったーぱーぱー（自分の祖母）にもハジチがあったけど、80歳の時は風車（かじまやー）でオープンカーに乗って地域で祝福された。だけどアイヌは虐げられてると聞いて、東京で踊ってほしいなど。チャランケ祭の理由にはそれもあったよね。祭りは伝えるものだからね。

———どうして11月にやるようになったんですか？

吉春 広尾さんが寒い時期にやりたいって言って。最初は10月にやって、そのうち11月になったの。俺たちにとってぎりぎりじゃん、寒さ耐えられるの。11月の1週目くらいが。

———チャランケ祭って、あの冷えた空気感の中で行うのが独特の魅力ですよ。空気が澄んできて、見えないものが見えてくる気がします。

———当時から20年以上続けるとは思ってましたか？

吉春 何も考えてないよ。だけどまわりが続くように考えていて。

———自然と続いて来た感じですか？

吉春 うん。いろいろあったけどね。

———これからのチャランケ祭に向けてはどうですか。シタク（*写真参照）を実現できたことは嬉しかったですか？20周年のときに実現して、その後毎年行っています。

吉春 シタクを含めて東京にはない祭りだけ……。うん……。もうちょっと、シタクを含めて内容を濃くした方がいいと思う。

———濃くとは…？どういう点ですか…？

吉春 （長い沈黙のあと）シタクの竹をちゃんとみんなが編めるように。縄のつなぎ方、締め方をね。そういうことを含めて、伝えていくために祭りがある。ただ縛ってたんじゃ昇れないよ。そういうのを含めて伝える。基本的なこと。

———たしかに（苦笑）そうですね…。

吉春 うん（微笑）。

———今日はありがとうございました。



第1回チャランケ祭のパンフレット



2013年のチャランケ祭で実現した、吉春さんの故郷沖縄の南風原・津嘉山の大綱曳きの豊年祈願の儀式をモデルにした「シタク」



エイサーの地方をつとめる吉春さん。踊りの型の多くも吉春さんによって編み出されている。



自身のお店、沖縄料理あしびなーでは毎月月末に投げ銭ライブも行っている。

■中野北口 沖縄料理あしびなー 営業時間 17:30~24:00 火曜定休
東京都中野区中野5-53-9-2階 TEL. 03-3389-7810
JR中野駅北口から徒歩5分。昭和大道商店街早稲田通り寄り。

■切り抜きコーナー

新聞や雑誌などでチャランケ祭が紹介された記事を紹介します。

東京の記憶

夢追う若者の「稽古場」

自由な空間 惜しまれ閉鎖

中野駅前北口広場

「我が家の口車世...」
 「我が家の口車世...」
 「我が家の口車世...」

2012年に中野駅前北口の広場で開かれたチャランケ祭の様子（チャランケ祭実行委員会提供）
 ●「中野のあまのこ」のチャランケ祭
 ●「中野のあまのこ」のチャランケ祭

20歳代で沖縄から上京し、現在は沖縄料理店「あしびなー」を営む金城吉春（61）は「東京のウチナーンチュ（沖縄の人）」にとって、広場は第二の故郷だった」と話す。沖縄が本土に復帰した1972年頃から、広場には沖縄から上京した若者らが集い、伝統芸能のエイサーを踊る場として定着。沖縄出身者以外の踊り手も増え、いつしか複数のエイサー祭りが行われるようになった。金城も、沖縄などの文化を発信する「チャランケ祭」を20年以上にわたって開催してきた。広場が閉鎖された昨年は、近くにある「四季の森公園」に会場を移した。祭りが始まる前、金城は広場から取ってきた土を公園にまいた。広場への感謝と、これからも祭りの歴史を受け継いでいく気概を示したかった。

2016年2月1日 読売新聞朝刊都民版「東京の記憶」 ＜記事からの抜粋＞

20歳代で沖縄から上京し、現在は沖縄料理店「あしびなー」を営む金城吉春（61）は「東京のウチナーンチュ（沖縄の人）」にとって、広場は第二の故郷だった」と話す。沖縄が本土に復帰した1972年頃から、広場には沖縄から上京した若者らが集い、伝統芸能のエイサーを踊る場として定着。沖縄出身者以外の踊り手も増え、いつしか複数のエイサー祭りが行われるようになった。金城も、沖縄などの文化を発信する「チャランケ祭」を20年以上にわたって開催してきた。広場が閉鎖された昨年は、近くにある「四季の森公園」に会場を移した。祭りが始まる前、金城は広場から取ってきた土を公園にまいた。広場への感謝と、これからも祭りの歴史を受け継いでいく気概を示したかった。

■チャランケ祭のこれまでの開催場所

- 第1回（1994年）～第16回（2009年）中野北口広場
- 第17回（2010年）中野北口円形広場跡地
- 第18回（2011年）中野・新井薬師境内
- 第19回～21回（2012～14年）中野北口暫定広場
- 第22回～（2015年～）中野・四季の森公園



2010年までの中野北口広場

■チャランケ祭ミニ辞典 <その2>

エイサー 沖縄では旧盆（旧暦7月15日）の夜、青年たちが中心になって祖先の霊を供養するために踊りながら自分たちのシマ（字、地域）を練り歩きます。祖先を迎え入れ、共に過ごし、そして「また来年来てくださいね～」と送り出します。エイサーの踊りの型や使われる曲は様々で、各地域でそれぞれ独自に発展してきました。近年では旧盆だけではなく、運動会や祝祭行事で踊られることも多くなりました。創作エイサーも活発になり、コンテストなども開かれるなど日々新たな展開をみせています。



東京でのエイサー 東京では1970年代からエイサーが踊られてきました。当時、沖縄県出身者の互助組織であった「ゆうなの会」では、浜比嘉島のパーランクーエイサーを習って踊っていました。1975年代々木公園で「第1回エイサーの夕べ」が開催され、ゆうなの会、沖縄県人会青年部、がじまるの会（大阪）、旧比嘉区青年会（現：久保田青年会）などが参加しました。当時はエイサーを踊ることで沖縄県出身者が自信を取り戻し、お互いを支え合っていました。現在は関東に多くのエイサー団体が存在しています。沖縄が本土に復帰して40数年。この間、どのような意味を持って皆がエイサーに関わってきたのか、その歴史を学び、人の思いに触れてみませんか。



（チャランケ祭パンフレットより）

■実行委員会事務局より

○参加団体の皆さんへ

今年度第2回の全体会議を9月に予定しています。日時が決まり次第ご連絡します。

○賛同金・広告のお願い

チャランケ祭の運営の貴重な財源となります。ご協力をお願いします。



- 賛同協賛金：個人一口1000円／団体一口3000円
- パンフレット広告 名刺大サイズ ¥5000／名刺大×2 ¥10000～
- <振り込み先>
- ゆうちょ銀行間の振り込みの場合
記号：10100 口座番号：75222021
- ゆうちょ銀行以外の金融機関からの振り込みの場合
銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900
店名：〇一八店 店番：018 普通預金 口座番号：7522202
名義：チャランケ祭実行委員会（チャランケまつりジッコウイインカイ）

<編集後記> 広報班のチャーちゃんです。チャランケ祭報 夏号、第2号にしていきなりインタビュー記事の入った特大号です！金城吉春さんへのインタビューはチャランケ祭が生まれた時のエネルギーと人々のふれあいを感じる事ができるいい時間でした。さて、今年も祭りが行われます！チャランケ祭は裏方も演者も観客も、みんなが実行委員会の一員となり作っていくお祭りです。これから3ヶ月間、みなさまと一緒にわくわくそわそわする時間を過ごしていけたら嬉しいです！それでは次号秋号でまたお会いしましょう～。

○次号は、10月に発行予定です。